

STEM REPORT Science English, Science & Talk

2023.2.10 FRI

2月10日（金）5, 6限、コスモサイエンスコース2年生 Science English の授業として自然科学研究機構外国人研究者による授業②「サイエンス・イングリッシュ」を実施しました。

分子科学研究所 URBAN Adrian 先生に、ご出身のドイツのこと、研究者に至る道、日本の生活で楽しいことなどと合わせ、分子エレクトロニクスに基づいたキラル分子の研究についてたっぷり語っていただきました。キラルとは分子の鏡像関係のこと。サリドマイドやメントール合成といった教科書の内容から易しく講義していただき、スピントロニクスに基づいたシミュレーションを行って合成実験をする「授業の先」までたっぷり語っていただきました。そして研究者に必要なものは「頑固さ」。コスモ生たちは、これからも頑張ろうという気持ちを新たにしました。

出身地の田園風景



日本のコンビニは秀逸
特にメロンパン！



サイエンス&トーク
キラル分子とは



URBAN 先生には授業後にも「サイエンス&トーク」でご指導いただきました。1,2年生の希望者20名に対しミニ講義を行い、フリートークにも応じていただきました。『これまで躊躇してきたけれど、今回は友だちを誘って参加してみた』という生徒も。この行事も3年目を迎え、少しずつすそ野が広がりつつあります。3月もお楽しみに！

受講生の声：特定のはたらきをもった分子を作るのに電子濃度（密度）が大切だと分かった。

研究者として、解を求めるのではなく求めようとする姿勢が大切なのだと思います。

物理学の研究のために、研究をしているような雰囲気を感じた。大発見・大発明のために小さな実験と結果の積み重ねがある。

ドイツの URBAN 先生が、どうやって英語を習得したのか気になった。会話をするためには日常から自分の身体を使って身に付けることが大切なのかもしれないと思った。

ドイツと日本の文化の違いも感じとることができた。ドイツは宗教的な考え方や生活習慣が色濃いように感じた。